



かたはSP学生Office

教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

かたはSP通信

と
ひ
と
学
生
ぐ
ツム

第33号

2017年8月8日

編集 竹内稔博

(東浦中学校主幹教諭)

夏休みわくわく算数・数学教室特集号 No.12

～そうだ、夏は、東浦へ行こう！ 東浦の子どもたちのために、
そしてSPさん自身の教師力向上のために～

指導の原点は1対1

8/8午後、最後のミーティングで



この日の最後のミーティングで、中村先生から話がありました。(動画で撮影してありますので、詳しくはDVDをご覧ください。打ち上げ会に参加した人の配るDVD特典映像に収録しています。)

「教育の原点、指導の原点は1対1なんです！」これが、数ある中村先生の教育信念の中の一番根っこの部分だと思っています。そして、このわくわく算数の事業は、この「根底の部分がすごく大事にされている」と言えます。もっと言う

と、だからこそ、この事業は、保護者や児童から絶大な信頼を得ているし、町当局も「これを広めたい」と思っていると思うのです。そして、SPさんは、「教育で一番大事なこと」を、大学生のうちに、身をもって学んでいるのです。そう考えると、すごいことですね。すばらしい体験ですね。

「わくわく算数が、SPさんにとって、絶対によい経験になる」と言われるのは、ここなのです。実際にやってみて、分かりますよね。あんなに子どもたちが生き生きと学習する姿、あの事実がすべてです。あるSPさんが、終わったあと「すごく子どもがかわいかった。すごく楽しい1時間半だった」とつぶやいていました。すてきな経験をされていました。これが、わくわく算数の「醍醐味」です。

町コーディネーターの大澤先生も、最後のミーティングで話されました。(これも特典DVDに収録しています。)
「小学校も中学校も根底は一緒。何がいいのか、それはまた考え、見つけていこう。その良さを見つけていこう。」

教育って、尊い営みでしょ。教職を目指すSPさん、東浦のこの経験は絶対、宝となりますよ。

